

【旭区】令和6年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

| | |
|------------|--|
| 開催日時 | 令和6年6月11日(火) 15時00分 ～ 16時20分 |
| 場 所 | 旭区役所新館2階 大会議室 |
| 出席者 | <p>【座長】木内 秀一 議員</p> <p>【議員：5名】佐藤 茂 議員、こがゆ 康弘 議員、大岩 真善和 議員 くしだ 久子 議員、増永 純女 議員</p> <p>【旭区：24名】権藤 由紀子 区長、田畑 哲夫 副区長、 種子田 太郎 旭消防署長、 下澤 明久 福祉保健センター長、 山本 千穂 福祉保健センター担当部長、 嘉悦 明彦 福祉保健センター医務担当部長 松村 克紀 旭土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか 関係職員</p> |
| 議 題 | <p>【議題】 令和6年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p> <p>【報告事項】 「横浜市郊外部における働く場の創出事業 ～旭区左近山団地における実証実験～」について</p> |
| 発言の 要 旨 | <p>【議題】 <u>1 令和6年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</u></p> <p>増永議員：「災害に強い区づくり事業（P4）」について、予算が昨年比399千円減の理由を教えてください。</p> <p>齋藤修身総務課長：予算全体の減額理由は、危機管理室の衛星携帯電話の配備の見直しに伴う通信費削減及び、ハザードマップの残部数を鑑みた印刷製本費の減。一方で区内イベントの実施やハザードマップの啓発用動画の制作費を増額しているため、事業としては拡充している。</p> <p>増永議員：ハザードマップの広報物が昨年度の余りがあるため、予算は減額されているが、全体としての事業は増えているという理解でよいか。</p> |

齋藤修身総務課長：その通り。

増永議員：能登半島沖地震もあり、地域の方の災害への意識も高まっているため、ぜひ事業を推進していただきたい意図で質問した。

「安全で安心な食と生活環境支援事業（P6）」のうち、動物適正飼育推進等啓発事業について、今回受付セットの配布ということで、ペットのいるご家族の方に向けて安心な取り組みになっているかと思うが、防災訓練の時に拠点ごとに配布することも念頭に置くこととして自治会への周知はしているのか。

中条圭伺生活衛生課長：受付セットの配布については、すべての拠点に配布する予定で考えている。先日の拠点の運営委員会連絡協議会総会の際に説明させていただき、実際の配布は職員が行い、必要に応じて説明する予定。

増永議員：先日の能登半島沖地震でもそうだったが、ペットのいるご家族の方が避難をやめてしまうという事例があった。横浜市はペットを連れてきた際も受け入れるということで説明していると思うが、この認識はあっているか。

中条圭伺生活衛生課長：ペット同行避難の場合でも円滑に受付を行えるようにという意図で受付セット（スターターキット）の配布を考えている。

増永議員：静岡市ではペットスペースとして、ペットのゲージがなく避難してきてもペット専用の場所を作る取り組みをしているが、今後このような場所づくりをすることについて検討しているか。

中条圭伺生活衛生課長：基本的に飼い主の方にゲージを持参していただくことを前提に考えている。先生のおっしゃった仕組みについては、今後、動物愛護センターに課題として伝えていきたい。

増永議員：今すぐということではないが、前向きに検討していただきたい。

風水害時のペットの一時預かり事業について、風水害では川の周辺の方が一時的に避難する際に、例えば、避難所に行きたいが、ペットがいるから行けないとなった場合、動物病院などがボランティアとして一時預かりを受け入れているが、この動物

病院などに補助があるとペットを預かる際も受け入れやすくなると思うがいかがか。

中条圭伺生活衛生課長：風水害の発生時については状況に応じて避難所開設をしている。同行避難の希望がある方については区役所にもスターターキットとしてブルーシート等を準備しており、避難所に配布する。また、獣医師会では独自の取組として、ボランティアでペット一時預かりをしている。ペット一時預かりについては獣医師会と動物愛護センターで検討を進めていくということで動物愛護センターから聞いている。

増永議員：ニュースなどでペットがいることを理由に避難をためらう方も多いと聞いた。命を守ることを優先にと思うので、検討を進めていただき、進捗もお聞きしたい。

「あさひのつながり応援・発信事業（P7）」のうち、あさひの魅力発信事業について、区民ライターがいよいよ始まるということで楽しみにしている。以前も指摘したが、作成後の記事の掲載方法が各区で違うなか、旭区での活用法を教えてください。

西澤美穂区政推進課長：旭区ホームページに記事を掲載する方向で検討している。ただ、最初から区役所のホームページを市民の方、区民の方が見てもらうということは難しいと考えているため、例えば民間事業者のサイトに情報掲載し、そこから区役所ホームページに飛ぶなど、できるだけ区民の方に見ていただけるよう検討を進めていきたい。

増永議員：ぜひ民間事業者との連携やアプリの活用など様々なツールを使いながら旭区の魅力を発信していただきたい。

「自治会町内会活動支援事業（P8）」について、加入促進のPRとしていよいよ区連会のホームページができるということで朗報と感じている。今後の流れを教えてください。

西原元地域振興課長：区連会のホームページのため、区から区連会に対して、補助金を交付し、区連会としてホームページを作成することになる。今月下旬からの契約手続きと平行して、単位町内会でもホームページを作成しているところがあるため、作成状況を照会し、作成イメージや、区連会のホームページと単位町内会のホームページの相互リンクができるように模索しながら

作成していく。

ホームページの公開は年末から年明けを予定。

増永議員：地元の自治会加入率が落ちており、若い世代はネットから情報を仕入れることを考えると、単位町内会でもホームページの作成や SNS の活用で情報弱者の方が情報をとれる仕組みはもちろんのこと、若い方が情報をとれるような仕組みを推進してほしい。他区では掲示板も少なくしていく方針にしているところもあると聞く。地域活動における ICT 活用支援も今回予算化されているため、単位町内会でも SNS の活用などもできるような研修・講習も検討してほしい。

「旭ふれあい区民まつり (P8)」について、昨年も要望しており、開催は鶴ヶ峰であるが、鶴ヶ峰以外にも飲食店等あるため、いろいろな地域の飲食店にも声をかけていただき旭区の皆さんが楽しめるように、そして出店できるようにしてほしい。

西原元地域振興課長：これまでは通例により鶴ヶ峰の商店街を中心に出店をお願いしていたところですが、前回のご指摘を受け、今年度は区内の商店の方に広くお声がけさせていただけるよう、区商連と調整している。

大岩議員：「自治会町内会活動支援事業 (P8)」のうち、地域活動における ICT 活用支援について、継続事業かと思うが、これまでのやってきたこと、それによる結果と今年度の予定を教えてください。

西原元地域振興課長：昨年度から始めた事業であり、昨年度は旭公会堂で ICT について関心のある自治会町内会の方を対象に講習を開催した。今年度は活用を考えている自治会町内会に出前形式で団体の実情に合った講習・相談対応を考えている。

大岩議員：LINE 等を活用して連絡を簡易化しているところもあると聞くためよろしくお願ひしたい。

「地域安全安心普及推進事業 (P5)」について、具体的に事故が起きて危ないため何とかしてほしいという相談を受けている。道路や交差点について危ないところを何とかしてほしいという地域からの要望に対し、管轄が警察になることもあると思うが、処理の流れや課題を教えてください。

西原元地域振興課長：土木事務所、地域振興課、警察との協議が主になる。

通学路についてはスクールゾーン対策協議会を学校単位で設けており、先の3者に学校も入って定期的に課題の洗い出しや対策を講じている。その他のエリアについては案件ごとにはなるが、地域振興課や、土木事務所にご相談いただき先の3者で協議し、対応している。

青木一義旭土木事務所副所長：死亡事故等の大きな事故があった場合、県警本部から調査員が派遣され、道路管理者である土木事務所も同行し、その後、対策について協議をすることもある。

大岩議員：今年度になり、担当者が変わっていると思うが、事業がどのように引き継がれているか確認したい。

鶴ヶ峰駅の地下化にともなう、地上の空いたところのまちづくりや活用方法について早めに考えて検討していかなければいけないと思うがどう引き継がれているか。

希望が丘の駅前のまちづくりについて勉強会が立ち上がったがその後について進捗や区役所のかかわりを教えてほしい。

若葉台西中学校の廃校後の利活用についての調査結果を教えてください。

西澤美穂区政推進課長：鶴ヶ峰駅については区庁舎含む再編整備の検討を進めていく必要があると認識している。また、線路の跡地の有効活用については今後のまちづくりに非常に重要であると考えているため、早期に検討する必要があると考えている。関係する都市整備局、道路局、区庁舎については市民局、その他相模鉄道との検討のベースとなる座組を作っていきたい。

希望が丘については、現地を確認し、ロータリーや歩道整備等の課題を認識している。令和3年に検討会が設立され、区役所、都市整備局、都市整備局の委託しているコーディネーター、相鉄アーバンクリエイティブが入って検討を進めていると聞いている。昨年度は駅から半径100mの地権者の方にお声がけをして、100m会議を2回開催し、区役所も入り検討を進めている。引き続き区としてもまちづくりが進むように支援をしていきたい。若葉台西中学校については、地域の方が活動している部分もあるため地域の方の意見を聞き、民間事業者と共存していけるようなやり方を委託等で検討している。昨年度は地域の方の利用

実態を調査し、活用方法の案を委託して作成している。今年度はこれまでの検討を踏まえサウンディング調査を行い、事業化に向けて本格的に進めていきたいと考えている。

大岩議員：まちづくりとなると 10 年程度の単位の期間がかかる。担当者変更に伴って事業が滞ることがないようにしていただきたい。

くしだ議員：「安全で安心な食と生活環境支援事業 (P6)」について、旭区は動物関係の支援を積極的にしていると認識している。飼い主のいない猫対策事業について、ボランティアの方が何人いるか教えてほしい。

中条圭伺生活衛生課長：令和 6 年 3 月末で 18 名のボランティアが登録している。

くしだ議員：ボランティアは増えているのか。また、ボランティア育成やサポートはどのようにしているのか教えてほしい。

中条圭伺生活衛生課長：人数は大きく変動していない。ボランティアは年 1 回会議・研修をしている。今年度は 5 月 23 日に実施し、不妊去勢のための猫の捕獲方法について研修会をした。

くしだ議員：不妊去勢は区で補助しているのか。

中条圭伺生活衛生課長：不妊去勢にかかる手術代は横浜市の事業として 5 千円を上限に補助をしている。運搬にかかる交通費として区からボランティアに対し、1 回につき 1 千円補助している。

くしだ議員：譲渡会が今週末公会堂で実施予定と聞いている。ボランティアの方も積極にかかわっていただいていると感じている。引き続きボランティアの方へ支援をしていただきたい。動物適正飼育推進等啓発事業について、ペット同行避難の訓練は 18 区の中で旭区が最初に実施したと認識している。今回 5 拠点で訓練の支援ということだが、支援先は決まっているのか。

中条圭伺生活衛生課長：1 拠点から申し込みの意向がある。5 拠点を目標に機会をみて案内をしていきたい。

くしだ議員：地域で取り組むにはハードルが高いと思うが、増永議員からも発言があったように、能登半島沖地震で関心度も高まってい

るので、区でも様々な支援をして5拠点で実施できるようにしていただきたい。

「あさひのつながり応援・発信事業 (P7)」のうち、地域課題解決型パートナーシップ推進事業について、空家の流通促進を図るための連携協定締結をしているとのことだが実際の動きがあったのか教えてほしい。

西澤美穂区政推進課長：2地区で始めており、自治会から連携している銀行に空き家の情報をいただき、通知を送るという段階で始めたばかり。効果的な方法を模索しながら連携して進めていきたい。

くしだ議員：調整があり大変だとは思いますが良い事例を積み重ねてほしい。

「文化芸術による心の豊かさ推進事業 (P10)」のうち、文化芸術活動支援事業について、特に乳幼児～10代を対象とした次世代の育成や青少年の文化活動の充実を図ることは良いことと思うが、ここに重点を置いた理由を教えてほしい。

西原元地域振興課長；補助金は従来からあるものですが、特別支援事業として乳幼児から10代を対象としたイベント等の事業にプレミアをつけている。市全体の子育て支援や、住み続けたい街づくりのためには若い世代に着目して参加していただけるように、また文化芸術の団体そのものについても新陳代謝が進むように、子育てに期するイベントにプレミアをつけた。今年度は22団体の補助事業のうち、3団体がプレミア事業になっている。

くしだ議員：旭区はスポーツも盛んで地域の交流にもつながる。子どものころの記憶は何歳になっても残るような気がしているため、旭区にふるさと意識が根付くように積極的に実施してほしい。

「子育て・若者支援事業 (P12)」のうち、困難を抱える若者支援事業について、継続事業として農福連携などで成果が上がっているようなことを昨年もお聞きしたが、現状を教えてほしい。

中島こずえ学校連携・こども担当課長：成果については表すのは難しいが、西部ユースプラザと連携して社会体験の場を広げることに力を入れている。決まったところだけの実施だと、決まった人し

か応募ができなくなってしまうため、軽いところからステップアップできるようにと思い、昨年度は区で実施した困難を抱える若者支援事業の講習会にお手伝いに来ていただいた。「区役所のお手伝いということで安心感があった」「区役所で来やすかった」「区役所でやることでステップアップしていきたい」という声があった。

今年度は区役所で行う会議体などでも参加いただける機会を作っていきたいと思っている。

くしだ議員：その人に合う方法は実際にやってみないと分からないこともあり、豊富なメニューで社会復帰につながるきっかけを見つけるには良いと思うので、良い事例を積み重ねてほしい。

施行されるのは先ですが、今国会で共同親権の法案が成立した。法律改正で現場にいろいろなことが求められてくると思う。「DV対策事業（P6）」の記載もあるが、離婚後に子どもと引き離された親が自分の子どもの成長を見たいと思ったときに学校行事の予定すらも知ることができず、子どもの姿さえも見られないという声を聞いている。共同親権という枠ができたことで現場を考える区としても対応を考えていかないといけないと思っているのか、どのように考えているのか教えてほしい。

河合太一こども家庭支援課長：まさに今国会で議論しているところですが、法律によってどのような役割がおりにくるか見えていない状況。法律改正のきっかけになったような様々な困難を抱えている方がいることは法改正にかかわらず支援していくことだと思っている。まずは子どもの最善の利益を考えて、それぞれのケースの中でその時に使える法律や制度を使いながら寄り添って対応できるよう考えていきたい。

くしだ議員：これから様々な事例が出てきて、区として対応していかないといけないと思うので、ぜひ対応できるようにしていただきたい。

こがゆ議員：「あさひ魅力発見事業（P17）」のうち、「あさひの逸品」キャンペーンはどのような内容か。

西原元地域振興課長：あさひの逸品については冊子を改訂。キャンペーンについては、10月20日（予定）の区民まつりをスタートにウォーキングイベントと連携して実施する。具体的にはウォーキングコース上のあさひの逸品の販売店舗紹介をするとともに、ウォークラリーのような形で、あさひの逸品を知って楽しんでもらえるようなイベントになるように検討している。

こがゆ議員：あさひの逸品事業は開始してから10年くらいになると思うが、改訂しているとは言いつつもあまり変わっていないように感じている。お菓子が中心になっているが、レストランやメニューを加えるなどもう少し工夫をしてほしい。

「自然豊かな旭区魅力アップ事業～国際園芸博覧会の機運醸成～（P18）」のうち、2027年国際園芸博覧会へ向けた機運醸成について、カウントダウンボードは、どのようなものをどこに設置するのか教えてほしい。

西澤美穂区政推進課長：区役所に置いてあるようなカウントダウンボードを、公共施設中心に、屋根や電源があり区民の方の目につくところに設置できるよう場所を検討していきたい。

こがゆ議員：機運醸成のため、目立つ必要があるため、駅などには大きめの比較的啓発になるようなものを、それ以外の図書館や地域ケアプラザなどでも区民の皆さんの目につくようなものを、場合によってはデジタルでなくてもよいと思うのでメリハリをつけて機運醸成を図っていただきたい。

佐藤議員：「保育所地域子育て支援事業（P13）」のうち、保育所を活用した養育支援強化事業について、保育士の研修はどのようなものか、また臨床心理士の派遣はどのくらいの依頼件数があるのか教えてほしい。

河合太一こども家庭支援課長：研修についてですが、年3回保育所職員等を対象に困難を抱えるご家庭との対応の方法、どのように寄り添うべきかという内容を施設長向けや職員向けの対応方法や、基本的な事項を学べる研修を昨年度は実施しており、延べ152人の方にご参加いただいた。

派遣実績ですが、私立18日72件、区役所に40日来てもらっ

ている。昨年度はそれまでの依頼していた方が産育休に入って1人での対応となっていたが、今年度は4人の方で対応できるようになったためより多くのニーズに対応できると考えている。

佐藤議員：区役所では何をしていたのか。

河合太一こども家庭支援課長：区役所へもご相談があるため、相談に対する回答作成や相談対応が主な業務となっている。

木内議員：かつて大規模再生プロジェクトがあったと思う。大規模団地の今後の発展について区として力を入れていくものがあれば教えてほしい。

西澤美穂区政推進課長：大規模団地についてはかつて区役所にも担当係長がおり、検討を進めていた。事業は終了したが、若葉台や左近山など区として後方的な支援については地域の方々や関係機関と連携しながらやっている。

木内議員：ひかりが丘も含めて旭区は大規模団地の高齢化が進んでいるため、サポートを引き続き検討していただきたい。

2 報告事項

「横浜市郊外部における働く場の創出事業

～旭区左近山団地における実証実験～」について

大岩議員：賃料が3年無償ということで終わった後に運営ができるのか気になるところ。もともと経済局と旭区でやっていた実証実験だと思う。旭区にはコワーキングスペースのニーズがあると考えているが、実際にスペース自体はあまりないのではないかと思う。旭区内でどこに何か所あるのか、わかるようであれば教えてほしい。調査していないようであれば見える化してほしい。

西澤美穂区政推進課長：調査をしていないため、経済局に情報があるか確認したい。

大岩議員：事業継続のためには、働く場の創出のためにどの程度ニーズがあるかや、旭区内でも新規事業としてやってみたという人を生

み出さないと難しいと思う。そういう人を生み出す取り組みを考えていただきたい。

こがゆ議員：取り組みとしては素晴らしい。利用数が伸び悩んでいると記載があるが、働く場として、働いて何らかの賃金を得られるなど良いことがないとなかなか集まらないと思う。

利用上の課題の記載もあるが、目的がない住民が多い。目的を作ってあげないと人が来ないし、集まっても利益を上げられるような事業がなかなかできない。そうなると思う。横浜市として賃料を払っている以上は成果が必要と考える。何が最終的に求められているのか、何を目標にしているのかが見えていない気がする。3人で何かやってくださいということだけでは利益が生まれることにならない。テコ入れをしないと利用者の伸び悩み、利用する目的のない住民が多いことが変わらないと思う。

西澤美穂区政推進課長：伸び悩みが課題で運営事業者とも効果的な手法を考えているところ。過去の利用率を調べるとトリオのイベントに参加した方は通常のリピート率よりも上がっているため、トリオ活動をきっかけにコワーキングスペースを知っていただいて、心地いいと感じて、利用していただいているのが数字から見えている。

トリオ活動で事業化まではつながっていないところではあるが、働くことを広義にとらえると地域の方が有料講座をやってみたいなど働くきっかけづくりになるように、どこに事業実績を求めるかは難しいところだとは思いますが、事業者として運営している方も左近山団地に大学生居住事業で入居していた方で、地域の中で関係性を築かれて頑張っているところのため、せっかく生まれた芽を大切に育てて事業が継続できるように区としても支援をしていきたい。

こがゆ議員：起業が目的なのか、団地の活性化が目的なのか、やり方や、目的、効果を明確にしておかないともやもやとしてしまう。

増永議員：トリオ左近山を利用する際の駐車場は自分で払うのか。

西澤美穂区政推進課長：2台まで無料駐車スペースがある。

| | |
|-----|---|
| | <p>増永議員：利用者の割合は団地の方が多いのか。</p> <p>西澤美穂区政推進課長：団地の方や近隣の方が多い状況。</p> <p>増永議員：こがゆ議員の発言にもあったようにターゲットिंगだと思う。使用しようと思って行ったが、常駐している人がいないため、入っていいかわからずあきらめたことがあった。資料には団地内外を問わず利用されたがと記載されているが、逆を返せばだれでも使ってしまったということだと思う。ターゲットングするのか、広く浅くやるのか、個人的にはあのエリアだとターゲットングだと思うので、そのあたりを踏まえて、トリオの皆さんと議論をしてほしい。</p> <p>コワーキングスペースによっては常駐のスタッフがいて相談に乗ってくれたり、オフラインコミュニティがあるなどの機能がある。機能とターゲットングを皆さんで議論いただきたい。</p> <p>また、左近山の商店街に出店を検討したが、スケルトンで返さなくてはいけなく、敷金が 80 万程度かかることで出店をあきらめる人が多いということを聞いた。寄り付きたいが寄りつけないという障害があり、活性化したい若者が入りづらいという声があった。トリオ左近山の時は UR とどのような話があったか教えてほしい。</p> <p>西澤美穂区政推進課長：今回の事業は区と UR が協定を結び、無償で事業者にも使用してもらっているため、敷金については話が出ているわけではないが、商店街の話は UR にも意見を伝えたいと思う。</p> <p>増永議員：商店街に人が集まれば、活性化につながると思う。こういう場所の活用にあたっては賑わいも寄与してくると思うので UR とも協議いただきたい。</p> |
| 備 考 | 会議の議事録作成については座長に一任で異議なし |